

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

Aug 2013.8
No.1018

表紙 本高祭仮装パフォーマンス



特集

Junior Sports Club Association

魅力いっぱい★スポーツ少年団

夢みる小さなアスリート

本町のスポーツ少年団の歴史

本町スポーツ少年団は、47年前の昭和41年5月に結成されました。当時の少年団は、本別剣道少年団、仙美里剣道少年団、本別柔道少年団の3団体。

この3団体が母体となり、同44年5月には15団体約390人が日本スポーツ少年団へ初登録しました。その後、同47年3月には、登録少年団を統括する本別町スポーツ少年団本部が設置され、以降、登録団体数、団員数は増加。同56年には団員数最高の1,128人、同58年には団体数最高の32団体が活動していました。ここ数年は少子化の影響もあり、団体・団員数ともに減少傾向にあるものの、平成25年度（6月末現在）は12団体177人が登録し、元気に活動しています。

この間、本町スポーツ少年団では多くの優秀な選手を輩出し、平成10年2月には、本別スケート少年団出身の野崎千春さんと貴裕さんが、長野五輪に日本スケート史上初となる姉弟出場を果たしたほか、平成20年3月には、本別柔道少年団出身の篠原大智さんが、大相撲の八角部屋に入門し、現在は三段目で北勝若の四股名で活躍しています。

本別町スポーツ少年団登録状況

	単位団数	団員数	指導者数
平成25年度	12	177	39
平成24年度	13	200	41
平成23年度	14	208	46
平成22年度	14	230	50
平成21年度	14	242	48
平成20年度	14	281	48

※平成25年度は6月末現在

■スポーツ少年団登録状況の推移

平成25年度の加入状況は、単位団12、団員数177人。5年前の平成20年度と比較し、単位団数で2団体減、団員数で104人減（△37%）、指導者数では9人減（△18.8%）となっています。

■町内小中学校児童・生徒数の推移

平成25年度の町内小中学校の児童・生徒数は520人（6月末）。5年前の平成20年度と同児童・生徒数620人（3月末）とを比較すると100人減（△16.1%）となっています。

児童・生徒数の減少率が16.1%に対して、少年団団員登録者の減少率は37%となっており、子どものスポーツ離れが懸念されます

笑顔・感動・涙ありの魅力いっぱい
のスポーツ少年団。
本別町には、スポーツを通して子供たちの健全な心と体を育む、12のスポーツ少年団があります。ここには、小・中学生約180人の小さなアスリートたちが所属し、日々、大きな「夢」を追い掛け奮闘しています。
あなたもこの機会に、スポーツ少年団活動を始めませんか。

スポーツ少年団では、地域の指導者が中心となり、スポーツの成長を通じた子供たちの心と体の成長を育んでいます。スポーツ活動には、競技だけではなく、野外活動やレクリエーション、社会活動など多様なプログラムも含まれます。
そこで活動する子供たちは、目標に向かって努力することや仲間を思いやること、チャレンジ

熱き指導者たち

多くの指導者は、仕事や家庭を持ちながら、自分の時間を使い、中には体を酷使しボランティアで指導にあたっています。そこには、時間やお金には代えられない、スポーツの素晴らしさを伝えたいという熱い思いがあるのです。
この思いが、少年団の活性化を図るとともに、子供たちのたくましい心と体を育てています。

あなたもスポーツ少年団活動を

スポーツ少年団はこんなところ

「ジすることなど、多くのことを学ぶほか、時には挫折も経験します。何よりも、子供たちはそれらを吸収し、これからの複雑多岐にわたる社会を「生き抜くために必要な力」を身につけることができます。さらに、保護者も子どもをサポートしながら一緒に楽しみ、親子の絆を深めることができるのもスポーツ少年団活動の大きな特徴の一つです。

各種大会等で華々しい活躍をする子供たち。新聞等では、子供たちの頑張りが大きく取り上げられます。
しかしその陰には、子供たちの努力はもろること、それらを導く「地域の指導者」が存在することを忘れてはいけません。



少年団の素晴らしいところは、夢を追いかける子どもと一緒に頑張っていけること...
少年団のちよつと大変なところは、少し時間とお金がかかること...
でも、この年代しか訪れないかもしれない、子どもとともに過ごす、かけがえのない時間だから、親子で少年団活動を楽しもう。

Junior Sports Club Association

魅力いっぱい★スポーツ少年団

夢みる小さなアスリート

挑 継 努 戦 続 力

鈴木清志さん(64)
向陽町



鈴木さんは、平成23年に杖道で七段を取得。このこと北海道初となる剣道・居合道を合わせた三道全てで七段を達成しました。その陰には、たゆまぬ努力と継続、挑戦の繰り返しがありました。また、剣道においては35年間継続し、今もなお剣道少年団指導者として少年剣士の育成に尽くされています。長年にわたり武の道を探求し続ける鈴木さんに、スポーツ(武道)の素晴らしさについて尋ねました。

スポーツの素晴らしさは、自分に対する挑戦ができることとです。これからも、目には見えない何かを求めて、体が動かなくなるまで挑戦し続けたいです。

スポーツの素晴らしさ

古場に行きたくないな、あるいは稽古をやりたくないなど思うときもあります。そこで自分に負けないことが大切です。その努力の積み重ねが確実に自己成長させます。

一次の目標は、今、居合道八段取得を目指し

最近、子供たちがゲームに集中している姿を目にします。一方で、外で元気に遊ぶ光景が見られなくなりました。心身ともに健康に育つためには、体を動かすことが大切です。限られた時間を有効に使い、スポーツにも興味を持ってほしいです。また、本別は自然に恵まれています。もつと外に出て、自分しか発見できない何か素晴らしさを探してみてもいいと思います。

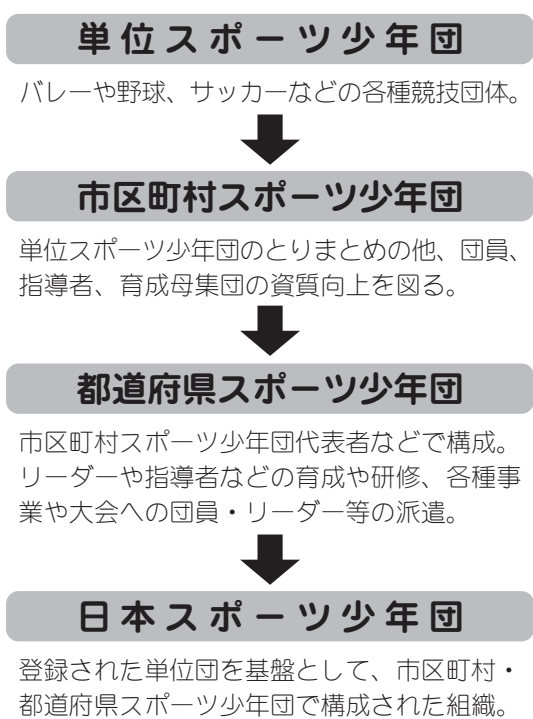
子供たちへのメッセージ
最近、子供たちがゲームに集中している姿を目にします。一方で、外で元気に遊ぶ光景が見られなくなりました。心身ともに健康に育つためには、体を動かすことが大切です。限られた時間を有効に使い、スポーツにも興味を持ってほしいです。また、本別は自然に恵まれています。もつと外に出て、自分しか発見できない何か素晴らしさを探してみてもいいと思います。

スポーツ少年団

1962年に財団法人日本体育協会創立50周年を記念して創設された歴史あるスポーツクラブです。「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを」「スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる組織を地域社会の中に！」と願いつくられました。

組織

単位スポーツ少年団、市区町村スポーツ少年団、都道府県スポーツ少年団、日本スポーツ少年団の4段階で構成、運営されています。また、住民スポーツの総体である体育協会や教育委員会とも連携して、青少年の健全育成に努めています。



単位スポーツ少年団

バレーや野球、サッカーなどの各種競技団体。

市区町村スポーツ少年団

単位スポーツ少年団のとりまとめの他、団員、指導者、育成母集団の資質向上を図る。

都道府県スポーツ少年団

市区町村スポーツ少年団代表者などで構成。リーダーや指導者などの育成や研修、各種事業や大会への団員・リーダー等の派遣。

日本スポーツ少年団

登録された単位団を基盤として、市区町村・都道府県スポーツ少年団で構成された組織。

登録

メンバーシップ制をとっていて、単位スポーツ少年団は年度ごとに団員、指導者の登録が必要です。市区町村スポーツ少年団に登録した単位団は、都道府県スポーツ少年団を通じて日本スポーツ少年団へ登録されます。

指導者 そして保護者として 子どもを支える

大和田清義さん(49)
美里別西上

長年息子と共にスケート人生を歩んできた、大和田清義さん。昨シーズンのジャパンカップで、息子の司さん(兄)、真さん(弟)が揃って日本の頂点に。決して才能ではなく、継続してきた結果と語る。日本一の息子を育てた、その独自の指導方法、そして保護者のあるべき姿について尋ねました。

子どもがスケートを始めたきっかけは

小学校の児童が少なく、野球ができなかったためです。体力とともに精神面を鍛えるのが目的でした。

どのような指導を

小・中学生は指導者と保護者で変わります。長く続けることが大切で、そのためには楽しくなければダメです。中学生くらいから頭角を現す指導を心掛けました。特に、子どもの体調管理をしながら、そのときのコンディションに合わせて指導することが大切で、「量より質」を重視。さらに、子どもの力を発揮させるため、大会の前々日は完全にオフにすることもこだわりました。また、スケート靴のひもは自分で縛れるまで練習

させましたね。

大変だったことは

帯広のスケートリンクが遠かったため、時間と費用がかかりました。特に、真さんが高校2・3年生のときは、帯広のリンクが使えなかったため、毎日釧路まで通った経験もあります。トップ選手の中では、最もスケートを滑っている時間が短かったと思います。

今はどのような

携わっていますか
アドバイザーと刃の調整はしています。
※十勝管外からも刃の調整に訪れる人がいるそうです
保護者のみなさんへ
大会で上位に入賞してもらい

オリンピック出場は 子どもの「目標」であり 親の「願い」

たい気持ちはわかりますが、小学生なら6年生、中学生なら3年生の最終学年で上位に入れるようにサポートしてあげてください。そのためにも、継続が必要になります。シーズン中だけでは強くないので、オフの時期を大切にしてください。また、足腰を鍛えるためにも、しっかりと歩かせてください。親は遠くから見守ること。子どもと共に成長してください。子どもを強くするのは「親」ですよ。

目指すは、

ソチ五輪
オリンピック出場は、「子どもの目標」であり、「親の願い」でもあります。今は、その最終目標に向けて一歩一歩進んでいます。

《昨シーズンの成績》
司さん(24)
ジャパンカップ 500M 1位
真さん(22)
ジャパンカップ1000M 1位
※昨年の中間距離国内トップタイムを記録しています



町内で元気に活動する12の少年団を紹介します

町内では、12のスポーツ少年団が元気に活動しています。「何かスポーツを始めたい」と思っているお子さんや「子どもにスポーツを始めさせたい」と思っているお父さん・お母さんがいましたら、ぜひご加入ください。なお、加入については希望する各少年団へお問い合わせください（11ページ）。

少年団活動を 支える 育成母集団

育成母集団とは、現在保護者の皆さんが所属している後援会のことです。子供たちの精神面、労力面、財政面をバックアップし、少年団活動を安全で効果的な活動にするために保護者等で構成された組織です。この陰の支えが、少年団活動を活発にさせるため、保護者一人ひとりの協力が必要になります。

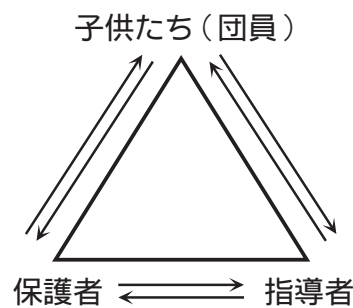
この名称は、単位団活動を支える「母体となる集団」という意味からつけられています。

よりよい 少年団活動

少年団活動は、勝利主義に果たよることなく、身体や精神などバランスよく成長させる青少年の健全育成を目的としています。

成績がよく、活発に活動している少年団では、練習会場に入ると多くの保護者が子供たちの練習を見学している光景を目にします。

この関係が、少年団を活発にさせている力の源だと感じます。熱心な指導者と頑張る子供たち、それを「影で支える」保護者。この三角関係がほどよく調和することで、よりよい少年団活動となるのです。



保護者の みなさんへ

強い子どもに育てるためには
みなさんは、我が子の活動を

指導者に任せっぱなしにしていませんか。指導者は、技術面では子供たちを上達させることができます。しかし、ハードな練習や多くの試練など、技術だけでは越えられない壁があります。その壁を乗り越えるためには、メンタル面での強さが必要です。厳しい練習でメンタル面が強くなる子どももいますが、全てがそうではありません。そこで重要なのが、保護者の支えです。決して子どもは1人では強くなれません。スランプのとき、あるいは心が折れそうになったときなど、子どもが苦しみながらもぶつかった壁を超えようと、懸命に頑張っている姿にしっかりと目を向け応援することが子どもを成長させます。また、そういった親の支えに、子どもは一生懸命に応



ようとするものです。途中でやめたり、あきらめたりするのは簡単です。子どもの将来を考え、しっかりと支えるとともに、保護者の皆さんも子どもと一緒に成長してください。

▼保護者は「縁の下の力持ち」

指導者も人間で、100%完璧ではありません。当然指導者一人ひとりの考え方も違います。保護者の皆さんもそれを理解した上で、自分のお子さんを少年団に預けていることと違います。しかしながら、全国的な現状としては、少なからず練習内容や選手選考に関する事など、過度に指導者に対して自分の意見を押し付ける保護者もいるようです。指導方法が目に見えることがあ

る場合を除いては、保護者は「縁の下の力持ち」であることを忘れてはいけません。人生経験の浅い指導者であれば、指導者を育てるくらい温かい気持ちも必要であり、指導者としてのしっかりとした信頼関係を築いていくことが大切です。

▼少年団を選ぶ上で親が大切にしたいポイント

親の願望ではなく、親子でしっかりと話し合い、いろいろな少年団をよく見た上で選ぶことが大切です。入団後は、親も指導者に預けっぱなしではなく、一緒に活動を支え、楽しむことが必要です。また、自分の子どもだけを見るのではなく、地域の子供たちと一緒に育むという視点が重要になります。

▼限られた子どもとの時間を大切に

少年団活動で子どもと笑ったり、泣いたり、怒ったりできるのは本当に短い時間です。でもその時間が、子どもを成長させ、これから社会に出ていく子どもにとって重要なことです。少し煩わしいこともあるかもしれませんが、そんな貴重な子どもとの時間を大切にしてください。

本別中央ジャンプ 少年団

団長 吉川 開
(本別中央小6年)

代表指導者 帰山 孝美 (54)
(指導歴1年)



指導方針等は、▼当たり前のことが当たり前にできる子どもを育成したいと思っています。(挨拶・返事・準備・後片づけ・礼儀・思いやり等)

楽しい事は、ラリーをみんなで声をかけあつてつなぐことです。それと時々出る監督のボケのすべりが、チームをなごませてくれます。頑張ることは、今まで以上に6年生2人で声を出すことです。これからも、さらに努力します。

▼耐性(我慢強さ)や協調性を育み体を動かす楽しさを味わわせたいと思っています。

▼本番に練習の成果を出し切れる(緊張感の中でもある程度頑張れる)子どもを育てたいと思っています。



勇足バレーボール 少年団

団長 林 彩奈
(勇足小5年)

代表指導者 池田 朋恵 (29)
(指導歴3年)



今年度は3年生2人、5年生1人の計3人で活動がスタートしました。団員が増えるまでは「個人の力を伸ばす」ことを目標に基礎練習を中心に、試合へ生かせる動きができるよう頭に使いながら練習に励んでいます。また、つないで決める(みんなで1点を勝ち取る)というバレーボールの楽しさを実感してほしいと思います。日々子供たちと共に汗を流しています。

私達勇足バレーボール少年団は、3人という人数ですが楽しく練習しています。人数が集まったら試合でいいプレーができるよう日々練習しています。監督に注意されたことを意識し、毎回練習にはげんでいます。



本別水泳

少年団

代表指導者

及川 哲夫 (68)

(指導歴33年)



団長
丹羽 隼己

(本別中央小6年)



指導方針は、
▼4種目の泳ぎの基本を繰り返し徹底指導
▼つらい練習を頑張れる体力づくり
▼楽しく、強い気持ちで真剣に、集中して、努力することにチャレンジ

▼挑戦は、少年団記録会、池北三町交歓記録会、十勝水泳少年団交歓大会、公認大会、全国JOCジュニアオリンピック水泳競技公式大会北海道予選会など19の記録会と大会に参加しています。



本別剣道

少年団

代表指導者

鈴木 清志 (64)

(指導歴35年)



団長
森 琉樹飛

(本別中3年)



本別剣道少年団では、小学生は週2回、中学生は毎日稽古に励んでいます。試合での勝敗も大切ですが、目標に向かって努力することや、我慢することなど、剣道の理念である「人間形成」を図ることに重点を置いて活動しています。指導には、当少年団出身者のほか、警察官、主婦など地域の方々が携わり、一人でも多くの選手が、生涯にわたり剣道を続けてくれることを願っています。



本別ミニバスケットボール少年団

代表指導者

岩木 豊 (62)

(指導歴25年)



は、仲間や親と一つになつて試合に勝つことです。
女子団長
三浦 柚菜

(本別中央小6年)



練習は、週3回小学校の体育館で行っています。みんなバスケットが大好きで、楽しく活動しています。少年団活動を通して社会性を身に付け、最後にみんながバスケットを好きになってくれることが一番の幸せです。

男子団長
佐藤 佑

(本別中央小6年)



僕らのチームは216年生のチームです。辛い事は、練習のダッシュですが、ダッシュのおかげでかなり疲れる守り方を続けられるのでダッシュ

私たちが女子は6人しかいないけど、みんな仲良しで練習を頑張っています。私は1年生から始めて、いろんな経験ができました。続けて良かったです。人数が増えて、一つでも多く試合ができるといいなと思います。



本別サッカー

少年団

代表指導者

真鍋 照彦 (57)

(指導歴23年)



団長
前佛 圭亮

(本別中央小5年)



サッカー少年団は、大好きなサッカーを通してチームのまとまり、助け合ふ心、技術の向上を目指し活動しています。多くの大会に参加して、他チームとの交流を図り、全ての団員に出場機会を与え、練習で培ったことを出せるように取り組んでいます。シーズン始めには、河川敷芝生広場のごみ拾いをし、練習終了時には全員がグラウンドに一礼をして解散します。指導者3人体制で高学年、低学年と分担し、各学年に合わせ、メニューを変えながら楽しさをトップに指導しています。



本別柔道

少年団

代表指導者

古山 靖弘 (45)

(指導歴13年)



団長
成田 友美

(仙美里中2年)



当少年団は、柔道の試合に勝つことだけが目的ではなく、礼儀正しく、仲間を大切にして、『何事も最後まで諦めず全力で頑張れる子』を目標に楽しく稽古に励んでいます。「柔道をやっていたから、今の自分がある」そんな人間を育てたいと思っています。活動は週2回の稽古のほか各種柔道大会や合宿、スポーツイベントへの参加、またレクリエーション等の親睦行事も行っています。また団員のお父さんも柔道を始め、子供と一緒に楽しく汗を流しています。



本別レッズ

野球少年団

代表指導者

菊地 正裕 (52)

(指導歴12年)



団長
中村 圭吾

(本別中央小6年)



本別レッズ野球少年団は、2年生から6年生21人で活動しています。平日は、午後4時から南球場で練習しています。大会の数も多いので、練習試合を多く取り入れています。少年野球の目的は野球の技術向上だけではなく、心身を鍛え、集団生活や礼儀を学ぶといった教育的な部分が多くを占めていると思います。野球を通して子供たちを健全に育成し野球を続けて良かったと思えるような指導をこれからも心掛けていきたいと思っています。



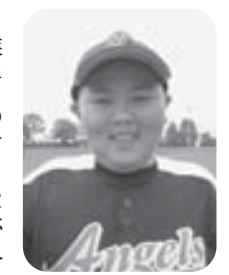
勇足エンジェルズ 野球少年団

団長
石上 晴康
(勇足小6年)

代表指導者
植村 顕(42)
(指導歴6年)



活動は4月から9月までは、週5日の練習を行っており、11月から2月までは、週2日の練習を行っています。また、各種大会に参加し、その前後には練習試合も組んでいます。主に野球技術の向上を目指して指導にあたっていますが、それだけではなく、活動を通して礼儀を身に付けたり、協調性を育むことも重点を置いていきます。さらに、活動を支えてくださっている育成会の方々にも感謝をしながら、日々の指導にあたっています。



僕たちのチームは、今年6年生が、1人なのですが、皆仲良く練習しています。大変な事は、チームをまとめて、試合に勝つことです。うれしい事は、試合中に守備でミスをしなかったり、攻撃でヒットを打った時です。



スケート少年団 (本別・勇足・仙美里合同)

代表指導者
井出 力(42)
(指導歴19年)



スケート少年団は、本別・勇足・仙美里(休止中)と別で組織していますが、練習および大会への参加、運営等は合同で行っております。活動期間は10月中旬から2月中旬までの期間で、本別のリンクが出来るまで休日は帯広にある明治十勝オーバルで氷上練習、平日は陸上トレーニングを行い、12月中・下旬に本別リンクが出来上がってからは地元で氷上、陸上練習を行っております。自己記録更新および技術習得を目標に能力、目的別にクラス分けをし練習を行っておりますが、地域スポーツであるスケートを通じて「あいさつ」、個人競技ですが「チームワークやおもいやり、感謝の気持ち」を大切に団体活動を行っております。冬期間で屋外が主体になり寒い時期の活動になりますが、ぜひ入団して屋外活動をみんなで楽しんでみませんか。

本別スケート少年団



十分の夏のうちからしっかりと体力を作り、冬

団長
森内 瑠那
(本別中央小6年)
今年の活動はまだ始まっています。



本別スケート少年団

に生かしていきたいです。私は今年で最後のスケートなのでしっかりと練習に取り組み、数々の大会で良い結果を残したいです。そして私達は色々な人に感謝をしながら毎日の練習に頑張ります。

勇足スケート少年団



今シーズンは6年生がいないので5年生が中心となっていて、低学年を引っ張っていきたく思います。また、少しでも速くなるように努力して、大会で全員が決勝に残れるようがんばります。

団長
前田 愛都
(勇足小5年)



勇足スケート少年団

仙美里グレート フレンズ野球少年団

代表指導者
原 政之(41)
(指導歴5年)



仙美里グレートフレンズ野球少年団は、1年生から6年生まで、12人で活動しています。人数は少なく試合となると常に人数ギリギリです。練習も楽ではありませんが、「グレートフレンズ」という名のとおり、上級生は下の学年を助けながら、みんなががんばって活動していく雰囲気があります。野球というスポーツを通して、練習でも試合でも、みんなの気持ちやプレーをつなげて一つにしていくことを一番大事に考えています。

団長
五野井 嶺
(仙美里小6年)



ぼくたちの毎日の練習は、ダッシュのベースランニングやノックなど、辛いこともあります。ですが、バッティングや試合形式などでいいプレーができた瞬間は、辛いことにまけないくらい最高で楽しいです。



町内スポーツ少年団一覧

種目	団名	主な練習日時	主な練習場所	募集対象者	問い合わせ
バレーボール	本別中央ジャンプ少年団	毎週 火・水・金 午後4時~午後6時30分 土 午前9時~正午	本別中央小体育館	小学生	吉川 亜子 さん ☎22-2700
	勇足バレーボール少年団	毎週 月・水・金 午後4時~午後6時	勇足小体育館	小学2~6年生 (勇足小児童のみ)	池田 朋恵 さん ☎23-2034
水泳	本別水泳少年団	5月上旬~9月下旬 月~金 午後4時~午後6時	町民水泳プール	小・中・高校生	丹羽 直美 さん ☎22-9008
剣道	本別剣道少年団	毎週 月・木 小学生以下 午後6時20分~午後7時45分 中学生 午後6時20分~午後9時	町柔剣道場	幼児(年長)~中学生	前田 光穂 さん ☎080-1875-2758
ミニバスケットボール	本別ミニバスケットボール少年団	毎週 火・木 午後4時~午後7時 土 午前9時~正午	本別中央小体育館	小学生	森永 美佳 さん ☎22-2039
サッカー	本別サッカー少年団	毎週 火・木・金 午後4時~午後6時	河川敷芝生広場	小学生	鈴木 啓友 さん ☎22-1755
柔道	本別柔道少年団	毎週 火・金 午後7時~午後9時	町柔剣道場	幼児~中学生	古山 靖弘 さん ☎090-5079-8667
野球	本別レッズ野球少年団	夏 週6日(曜日不定) 冬 週2~3日(曜日不定)	夏:町内野球場 冬:町内体育館等	小学生 (中央小児童のみ)	長屋 和幸 さん ☎22-5568
	勇足エンジェルズ野球少年団	毎週 月・火・水・金 午後4時~午後6時	勇足小グラウンド	小学2~6年生 (勇足小児童のみ)	植村 顕 さん ☎23-2034
	仙美里グレートフレンズ野球少年団	毎週 月~金 午後3時35分~午後5時50分	仙美里小体育館 仙美里小グラウンド	小学生 (仙美里小児童のみ)	原 政之 さん ☎24-2120
スケート	本別スケート少年団	12月中旬~2月上旬 午後4時~午後6時	町民スケートリンク	小学生 (中央小児童のみ)	木村 和弘 さん ☎22-3922
	勇足スケート少年団	(2少年団合同)		小学生 (勇足小児童のみ)	久常 章司 さん ☎23-2837



スポーツ少年団に関する問い合わせ
町体育館内スポーツ担当
☎22-2331

本別町戦没者・戦災死没者追悼式

7月15日



戦争による犠牲者の方々の冥福を祈り、恒久平和を願う「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が7月15日午前10時から、遺族や来賓など約60人が参列し、向陽町のふれあい交流館でしめやかに執り行われました。

平和への誓い新たに

本別町では、日清・日露・第2次世界大戦の戦役で299人が、終戦直前の昭和20年7月15日には、米軍機による本別空襲で40人が犠牲になり、十勝最大の被災地となりました。

追悼式では、全町民に黙とうを呼び掛けたサイレンが吹鳴され、参加者全員で黙とうを捧げた後、高橋正夫町長が「戦後60有余年の歳月が矢のごとく過ぎ、時の流れは悲惨な戦争の記憶を風化させ、平和の尊ささえ忘れさせようとしています。現在もお、武力による紛争が続くことを考えると、今こそ真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さぬよう、町民とともに決意を新たにすることが今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上の務めです」と式辞を述べ、方川一郎町議会議長、桑田達一社会福祉協議会会長、政本高治本別町遺族会会長らが追悼の言葉を送りました。



献花を捧げる参列者

語り継ぐ

本別空襲の悲劇と平和への思い

十勝で最大の空襲被害を受け、多くの町民が犠牲となった本別町。空襲から今年で68年。減りつつある戦争の傷跡。しかし、傷跡は消えても、そこには決して忘れてはいけない過去と語り継いでいかなければならない事実がある。戦争という過ちを二度と繰り返さないために、我々は何ができるだろうか。



ほんへつ学びの日 祈風事業 企画展

「7月15日本別空襲を伝える ― 十勝に残る戦争跡地 ―」

資料館企画展「7月15日本別空襲を伝える―十勝に残る戦争跡地―」が7月2日、同館で開幕しました。1階には、本別空襲で破壊された花瓶や機関銃の薬きょう、7月から取り壊しが進められたJA本別町生産資材倉庫の銃弾痕のある壁を切り取ったものなど貴重な資料が、2階には、十勝管内および本別に残る戦争跡地の写真やパネルのほか、戦争時代の遊び道具や生活道具などが展示されました。このほか、語り継ぐ活動として、町内小中学生を対象に本別空襲体験者からの「語り部の会」も行われるなど、来館した多くの人が戦争と平和について考えました。

戦争の恐ろしさと平和の尊さを子供たちへ

戦時中の生活や戦争の悲惨さを学ぼうと町内小中学校の児童・生徒が7月12日、16日に歴史民俗資料館の企画展を訪れました。児童・生徒らは、本別空襲に関する貴重な資料等について資料館職員から説明を受けたり、戦争のころ子供だった2人から当時の生活について話を聞いたほか、戦時中の食生活を再現した「いなぎびご飯」や「でんぷんがき」を試食し、戦争の恐ろしさと平和の尊さを学びました。

今の生活の豊かさを実感

勇足中学校（上田禎子校長、24人）の全校生徒が7月12日、資料館職員から1階の本別空襲に関する貴重な展示資料の説明を受けた後、2階では、十勝管内や本別の戦争時代の遊び道具や生活用具などについて触れました。最後には、当時を再現した米2、いなぎび1、おし麦1の割合で炊き上げた、いなぎびご飯を試食。生徒らは、「味がしない」「お米のほうが美味しい」などと感想を述べ、戦時中の貧しい暮らしを体験するとともに、今の生活の豊かさを実感しました。



資料館職員からの説明に耳を傾ける勇中学生徒



いなぎびご飯の試食

戦争のころの子どもの生活

西美里別 佐藤康夫さん(79)



勇足小学校（曾根広全校長、43人）の1・2年生が7月16日、資料館職員から戦争に関する絵本の読み聞かせを、3・6年生は、西美里別にお住まいの佐藤さんから「戦争のころの子どもの生活」と題し当時の暮らしについてお話を聞きました。佐藤さんは、自身の子どものころの学校生活や先生との思い出、川遊びや阿寒、釧路を旅行したときの出来事などを語り、児童らは今と昔の生活環境の違いを学びました。



銃弾痕を見つめる勇小児童



昔のおやつ「でんぷんがき」

読み聞かせ、語り部を聞いた勇足小学校児童、仙美里中学校生徒らは昔のおやつ体験として、でんぷんと砂糖をお湯で溶かした「でんぷんがき」を試食しました。おいしいと笑顔を見せたり、「味がしない」などと渋い表情を見せる児童もいるなど、現代の食生活のありがたさを心に刻みました。

戦争中の食生活

弥生町 吉井 誠さん(81)



仙美里中学校（式見祝賀校長、19人）の全校生徒は、7月16日、弥生町にお住まいの吉井さんから、「戦争中の食生活」と題し、当時町内で栽培されていた作物や調理の仕方について話を聞きました。吉井さんは、当時の出来事や味を思い出深い様子で語り、生徒らは食糧不足の時代を暮らしたについて学びました。



語り部に聞き入る仙中学生徒



展示資料から空襲の悲惨さを学ぶ



吉井さんが展示資料について説明

語り継ぐ



切り取った部分→

取り壊し前のJA本別町生産資材倉庫

消えゆく戦争の傷跡

7月1日から取り壊し作業が進められたJA本別町生産資材倉庫（北5丁目）の壁の一部を切り取る作業が7月11日午前9時から、報道機関や歴史民俗資料館関係者などが見守る中実施されました。これは、この壁に本別空襲で受けた銃弾痕が残っていることから、戦争の恐ろしさを後世へ伝えるため、歴史民俗資料館で保存できるように行われたものです。空襲から68年が経過していることから、コンクリートの壁がもろくなっているため、作業は慎重に進められ、切り取りが完了したのは作業開始から3時間後の正午。翌日、資料館に運ばれ展示されました。切り取った壁のサイズは、縦60cm、横60cm、厚さ23cm、重さ約180kg。



切り取り作業の様子



慎重に進められた搬出作業

スターフェスティバル

2013



第21回スターフェスティバル2013（銀河通り推進協議会主催）が7月20日、銀河通り歩行者天国で開催され、町内外から訪れた家族連れや仲間同士が、夏夜の楽しいひとときを過ごしました。

ビールに行列、ビンゴに歓声



天候に恵まれ気温の上ったこの日、会場には多くの人が詰め掛け、やきとりや海産物、ビール、チューハイなど多彩なメニューの食べ物、飲み物の販売に絶えず行列ができました。特設ステージでは、演歌歌手の武山あきよさんによる歌謡ショー、10万円分の旅行券、自転車など豪華景品が当たるビンゴゲーム大会も行われ、ビンゴが出るたびに大きな歓声が上がりました。

秦 万里子

コンサート



主婦を元気にするカリスマ音楽家として知られる秦万里子さんを迎えた「秦万里子コンサート」(町芸術文化事業振興会主催|| 榎原秀樹会長)が7月7日、中央公民館で開催され、会場に詰め掛けた約250人の来場者が歌と笑いのステージに魅了されました。

歌・トークに 大きな拍手

コンサートは、秦さんが作曲したテレビ番組でおなじみの歌「はなまる」から始まり、「バーゲン・バーゲン」「あくあなたつて」など、バーゲンの欲望、夫への不満等、日常生活の出来事を主婦の目線から歌った曲が数多く披露されました。曲の合間には、自らの楽曲に込めた思いや日ごろの活動などについて軽快なトークが繰り広げられたほか、秦さんと来場者が一緒に歌いながら歌詞に合わせた手話を楽しんだり、じゃんけんで勝った来場者へ即興で歌のプレゼントがされる場面も。会場からは、秦さんの力強いピアノ演奏と歌声、魅力あふれる多彩なステージに大きな拍手が送られました。

国民年金

あなたも年金を増やしませんか？

その136

20歳から60歳まで40年間保険料を納めた人が、65歳から受け取る老齢基礎年金は満額で78万6500円(平成25年度額)です。
年金額を充実させるには、「付加年金」「国民年金基金」「任意加入」などの制度があり、将来老齢基礎年金に上乘せして受け取ることができます。

これらの制度に加入すると、納めた保険料や掛け金は全額所得控除となり、所得税や住民税が軽減されるというメリットもあります。

ちょっと増やせる

① 付加年金

国民年金第1号被保険者が、国民年金保険料に付加保険料を上乘せして納める制度。ただし、国民年金基金に未加入、保険料免除を受けていないことなどの条件があります。
☆納める付加保険料(月額) 4000円
☆受け取る付加年金額(年額) 2000円×納付月数



選んで増やせる

② 国民年金基金

国民年金第1号被保険者が、受け取りたい年金額などに応じて、加入口数や年金の種類を選択し、掛け金を納める制度。

③ 任意加入

国民年金保険料の納め忘れなどで保険料の納付済期間が40年間に満たない場合に、60歳から65歳になるまでの間に国民年金に任意加入して、満額の年金に近づける制度。ただし、厚生年金保険や共済組合に加入していないことなどの条件があります。
※保険料の納付方法は、原則口座振り替えになります

申し込みおよびお問合せ先

- 付加年金・任意加入
役場住民課戸籍年金担当
☎22-8128
- 帯広年金事務所
☎015512518113
- 国民年金基金
北海道国民年金基金フリーダイヤル
☎012016514192

詳しくは
住民課戸籍年金担当へ
☎22-8128

白糠町で 町の特産品をPR

6/23

町と町観光協会（野田仁会長）が6月23日、白糠町で開催された「港in白糠大漁まつり」で、町の特産品をPRしました。これは、今年3月に両町の間で「包括交流連携協定」が結ばれたことにより、今回初めて実現したものです。この日はあいにくの霧模様となりましたが、自慢の特産品を積極的にPRしたところ、白糠町民をはじめ多くの来場者から注目をいただき、本別町ブースは大変盛況となりました。今後も、「いざというとき」に助け合えるよう、相互の信頼関係を深めていきます。



リズムに揺られて すやすや

6/24

家庭教育支援事業「なかよし」によるママとベビーのリズムダンスが6月24日、インストラクターの小林永枝さんを講師に健康管理センターで行われ、9組19人の親子が触れ合いのひとときを楽しみました。このリズムダンスは、ママが赤ちゃんを抱きながら音楽に合わせてステップを踏むことで、ママの運動不足解消や親子のスキンシップを図るもの。ママは爽やかな汗を流し、抱っこひもで抱かれた赤ちゃんはリズムカルなステップの揺れですやすや眠ったり笑顔を見せていました。



本番さながら 勇中避難訓練

6/21

勇足中学校（上田禎子校長、24人）が6月21日、不審者侵入時の緊急事態を想定した避難訓練を実施しました。訓練では、授業中の校内に刃物を持った不審者役の本別警察署員が侵入。教諭らが連携し、生徒の安全を第一に、警察への通報から侵入者確保、生徒の避難までの一連の動作を本番さながらの動きで確認しました。訓練終了後には、体育館で本別警察署員による防犯教室も行われ、自転車乗車時に見知らぬ人から声を掛けられた場合の対処方法や、護身術を学びました。



環境美化の 心を育てる

6/22

勇足元町子ども会（石上晴康会長）の5歳から小学6年生までの子供たち9人とその保護者が6月22日、同地区を通過する国道や町道脇のごみ拾いを実施しました。この取り組みは環境美化の心を育てることを目的に毎年ボランティアで行われているもので、子供たちは、ごみ袋を手に、空き缶やタバコの吸い殻など大小のごみを、一つひとつ丁寧に拾い集めました。



本別中央小学校は、本年度もひと味違う特色ある活動をしています。

新聞等でも紹介されたものの中から活動をご紹介します。

ゆめちからは、 すごいちから!

7月8日、前田茂雄さん（前田農産食品専務）のご好意により、中央小の2年生は「十勝ベーカリーキャンプ2013」での小麦畑ツアーに参加させていただきました。

当日は本当に暑い日でしたが、小麦について学習し、小麦や人とふれあい、小麦から作ったパンなどを十分に味わわせてもらいました。

学級通信「キラキラ キラツ☆」より

今回実際にお話を伺ったり、関わりを持つことができ、本別で作られている小麦が、より身近に感じられたと思います。そして、それが小麦からおいしいパンに変身するまでの過程や本別町の農業に興味を持つことだけではなく、食べ物を大事にする心を持つきっかけにもつながったと思います。

みんな（子供たち）も参加して作らせてもらったアンパンマンの顔は、前田さんがGPSを用いて精密に顔のパーツに印を付けて準備されたそうです。農業やIT技術、いろいろなつながりがあって成り立っているのだなあとたいへん勉強になりました。様々な体験をして育っていく、子供たちの将来や子供たちが作る本別町も楽しみですね。

子ども達の感想から

小麦は、パンに変身する不思議な力があるとわかりました。ゆめちからはなんでゆめちからという名前なのか今度教えてくださいね。アンパンマンは、麦からできているからアンパンマンにしたんですか？またやってみたいです。せかいに一つしかないゆめちからを大切に育ててください。どうもありがとうございました。（ほしお）

各学校の手作りページ

HELLO 本別中央小学校



アンパンマンの形づくり



元気いっぱいゆめちからの歌



ランチをたのしむ子供たち



上から見たゆめちからアンパンマン

夜でかけナイト

7/5

第33回夜でかけナイト（実行委員会主催）が7月5日、北1丁目から北4丁目商店街で開催されました。ストリートライブや抽選会など多くの催しもの



が行われたほか、焼き鳥やビール、おもちゃなどを提供する屋台も出店し、家族連れなど多くの人でにぎわいました。

爽やかな音色

7/6

本別ブラスアンサンブル（唯野靖紀会長）による第28回定期演奏会が7月6日、道の駅「ステラ★ほんべつ」で開かれ、爽やかな音色で約60人の観客を魅了しました。10のパートに分かれた20人の演奏者は、2部構成のステージでテレビドラマのテーマ曲やアニメメドレーなど、アンコールを含め全12曲を披露。



会場内は、演奏が終わるたびに送られる来場者からの大きな拍手で包まれました。

全員野球で頑張る

7/8

十勝の予選を勝ち抜き、7月13日から15日に帯広市で開催される高円宮賜杯第33回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント北北海道予選大会に出場する本別レッズ野球少年団（菊地正裕監督）の21人が7月8日、教育委員会を訪れ中野博文教育長に北北海道大会出場を報告しました。選手らは、「全員野球で、1勝目指して頑張りたい」「悔いの残らないようプレーします」などと力強く抱負を語り、中野教育長は「力いっぱい試合に挑んでください」と激励しました。



全道大会では1回戦敗退でしたが、全員野球で奮闘しました。

ライオンズクラブ新体制でスタート

7/2

7月1日から新体制でスタートした本別ライオンズクラブの新三役が7月2日、役場を訪れ、高橋正夫町長を敬訪問しました。同クラブでは、会長に伊藤巖さん、幹事に砂原勝さん、会計に杉村敦善さんが就任。伊藤会長は、「先輩の築いたライオンズを一生懸命引き継いでいきたい。絆を大事に、大切な子供たちに重点を置いた活動を展開したい」と抱負を語りました。



全道陸上大会出場報告

7/3

十勝予選を突破し、7月14日、15日に函館市で開催される「第31回北海道小学生陸上競技大会」に出場する本別陸上少年団（紺野雅弘監督）の広瀬蘭さん（中央小6年）と松井廉さん（同5年）が7月3日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場を報告しました。広瀬さんは「自己ベストを更新し、決勝に残りたい」、松井さんは「ベスト8に残りたい」と力強く抱負を述べ、中野教育長は「日ごろの練習の成果を発揮し、ベストを尽くしてください」と激励しました。



全道大会では入賞しなかったものの、健闘しました。

おいしいパン作りのコツを学ぶ

6/30

本別産小麦を使用したパン作り講習会（十勝ベーカリーキャンプ実行委員会主催）が6月30日、はるこまベーカリーオーナーシェフの栗原民也さんを講師にゲンキッチンで開催されました。栗原さんは、「おいしいパンを作るためには、毎日パンを焼いてコツをつかむこと」と話し、パン生地をこねる・丸めるといった作業や、小麦の味を活かしたパン作りの技を伝授。参加した27人は、キタノカオリ、キタホナミなど本別産小麦を使いフランスパンやフォカッチャなど4種類のパンを焼き上げました。



大盛況の農大祭

6/30

第40回農大祭（実行委員会主催）が6月30日、北海道立農業大学校（加藤和彦校長）中庭で開催されました。晴天の下、会場では焼き肉用農大産肉や仙美里ヶ丘ブランドのチーズ、ベーコンのほか、学生による焼きそばやかき氷など多くの食べ物、飲み物のお店が出店。完売する商品も続出するなど、大盛況を見せました。また、学生によるバンドライブや40型液晶テレビ、扇風機などが当たる抽選会も行われ、町内外から訪れた多くの来場者が楽しい1日を過ごしました。



7年ぶりに北北海道大会出場

6/26

十勝の予選を勝ち抜き、7月27日、28日に旭川市他2町で開かれる第10回北北海道ミニバスケットボールフェスティバル旭川大会に出場する、本別ミニバスケットボール少年団（岩木豊監督）の14人が6月26日、教育委員会を訪れ中野博文教育長に北北海道大会出場を報告しました。同大会に出場するのは、平成18年以來7年ぶり。選手らは、「自分の力を出し切って一杯頑張りたい」「全勝できるように頑張りたい」と語り、中野教育長は「チームワークと思いやりを持って、一生懸命頑張ってください」と激励しました。



約50キロを走破

6/30

第49回十勝サイクリングin本別大会（本別サイクリング協会主催）が6月30日、町内で開催されました。太陽の丘で行われた開会式で、同協会古田二郎会長が「緑豊かな本別町の大地を存分に走ってください」とあいさつした後、町内外から参加した35人が完走目指し一斉にスタート。約50キロを走破した参加者からは爽やかな笑顔を見せていました。



下校時に交通安全呼び掛ける

7/16 7/18

本別町交通安全指導員会（宮崎統会長）初の試みとなる「夏の下校時の交通安全キャンペーン」が7月16日に本別中央小学校で、同18日に仙美里小学校で実施されました。同指導員らは、アニメキャラクターの夜光反射材を、下校する児童一人ひとりに手渡ししながら、「気を付けて帰ってね」と交通安全を呼び掛けました。児童らは、かわいいと歓声を上げ、その場でランドセルなどに付けていました。

本別中央小学校



仙美里小学校

水泳少年団、全道大会出場報告

7/16

標準タイムを突破し、7月20日、21日に江別市で開催される全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳少年団（及川哲夫監督）の選手12人が7月16日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に全道大会出場の報告をしました。選手らは、「全力を尽くして泳ぎます」「ベストタイムが出せるように頑張ります」などと力強く抱負を述べ、中野教育長は「全力を出し、ベストタイムを目指し頑張ってきてください」とエールを送りました。



全道大会では、入賞はしなかったものの、選手らはベストを尽しました。

100歳長寿おめでとうございます 町敬老祝い金の贈呈

砂原太郎さん（南4丁目）が6月25日に、100歳を迎えられ、高橋正夫町長から敬老祝い金7万円と商品券3万円分が贈呈されました。

太三郎さんは、大正2年6月25日に浦幌町で生まれ、昭和15年に故シゲさんと結婚。農業を営みながら1男1女のお子さんを育て、孫5人、ひ孫8人、やしゃご1人にも恵まれました。昭和44年に本別町に住所を移し、長男松男さんと同居し現在に至っています。100歳を迎えられた気持ちを尋ねると、「まだ、80歳位の気分」と元気に語り、現在は週1回のデイサービスを楽しみに過ごしています。



町民ゴルフ大会

7/14

第16回町民ゴルフ大会（実行委員会主催）が7月14日、アリスト本別ゴルフ倶楽部で開催されました。参加者76人は、交流を図りながらも白熱したゲームを展開。3番ホールでは、今年も1打でグリーンに乗らなければ募金するチャリティーホールが設けられ、集まった76,020円は、町スポーツ振興基金に寄付されました。成績は次の通り。

優勝 = 工藤 雄 さん
準優勝 = 内田 智大 さん
第3位 = 山根 裕二 さん

ベストグロス

男性 = 鎌田 國夫 さん (76打)
女性 = 荒木 富士子 さん (76打)
シニア = 水元 博宣 さん (76打)



太陽の丘杯 パークゴルフ大会

7/15

第7回太陽の丘杯パークゴルフ大会（本別町・本別町教育委員会主催）が7月15日、太陽の丘パークゴルフ場で開催されました。大会には、町内外から約80人が出場。選手らは、6コース54ホールで自慢の腕を競い合い、爽やかな汗を流し交流を深めました。成績は次の通り。 ※本別町分〈女性〉

優勝 = 西尾 敏江 さん
第3位 = 小野田 皓永 さん



はつらつプレー

7/10

第32回町長杯争奪高齢者ゲートボール大会が7月10日、銀河アリーナで開催されました。大会には町内から8チーム42人が出場し暑さを吹き飛ばすはつらつプレーを展開。2ブロックに分かれたリンク戦の後、上位2チームによる順位決定戦が行われ、選手らは日ごろの練習の成果を發揮し、巧みなスティックさばきを披露しました。成績は次の通り。

優勝 = 勇足 B
準優勝 = 星流 (市街地)
第3位 = 美里別 A



まちがきれいに

7/12

野田組（野田仁社長）、山中（畝地昭夫社長）の職員30人が7月12日、ボランティアで清掃活動を実施しました。作業は、役場周辺や河川敷地、本別公園など広範囲で行われ、参加者らは、ごみを丁寧に拾い集める作業に汗を流しました。



みんなの健康

348

痛風は、身体の尿酸の排泄がうまくいかなかったり、尿酸が作られ過ぎたりすることが原因で起こるといわれています。尿酸が体内にどんどんたまり、血液中の濃度が高くなり、血液に溶けなくなった尿酸が、関節内で結晶になります。風が吹いても痛いというくらい痛みの伴う痛風ですが、健診や病院などで尿酸値が高いと

気をつけて、痛風!!

われませんが、お酒であれば種類に関係なく、尿酸値は上がります。また、肥満の濃度が高くなり、血液に溶けなくなった尿酸が、関節内で結晶になります。風が吹いても痛いというくらい痛みの伴う痛風ですが、健診や病院などで尿酸値が高いと



※標準体重(kg)の求め方
身長(m)×身長(m)×22
例)身長150cmの人の場合
1.5(m)×1.5(m)×22=49.5kgになります

本別国民健康保険病院
管理栄養士 乙戸ゆかり

未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。お父さん、お母さんの愛で育まれてくれています。元気な声で育つね!



向陽町 篠田 紗希奈 (沙織) (ママ)



押帯 星 姫香琉 (明日香) (ママ)



勇足西1 山下 和花 (陽子) (ママ)



美里別東中 濱名 桃佳 (のぞみ) (ママ)

※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

銀河ホップタウン

足寄町

第34回 足寄ふるさと盆踊り 両国花火大会

盆踊りや花火大会などさまざまな催し物で皆さんをお迎えします。ぜひご来場ください。

8月15日(木) 午後3時30分

町民センター駐車場 および周辺

陸別町

「陸別百恋水」がリニューアルしました

昨年、試験製造された「陸別百恋水」が、「ポトルドウォーター」から「ナチュラルミネラルウォーター」に生まれ変わり、ラベルも新しくなりました。価格は、1本100円。陸別観光物産館(道の駅・オーロラタウン93内)、陸



2712141 内線215

別町内各商店で取り扱っておりますので陸別にお越しの際はぜひご賞味ください。お問い合わせ 陸別町役場総務課チャレンジプロジェクト担当

足寄町役場経済課林業商工観光室 2512141 内線241

内容

- 午後3時30分〜こども縁日
- 午後5時〜仮装盆踊り・素踊り 受付開始(本部席)
- 午後5時15分〜みんなで楽しむ足寄音頭 子ども盆踊り
- 午後6時〜もちまき
- 午後6時15分〜仮装盆踊り・素踊り
- 午後7時15分〜両国花火大会
- 午後8時30分〜仮装盆踊り審査発表・表彰式
- 午後8時40分〜お楽しみ抽選会

※時間に変更になる場合があります

ご寄付ありがとうございます

平成25年6月17日から7月14日

次の通りご寄付をいただきました。紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ★本別町老人ホーム指定
タオル50本 向陽町 大留 一身
タオル35本 匿名
- ★本別町農業振興基金指定
金10,000,000円
..... 北5丁目
本別町農業協同組合
代表理事組合長 田中 敏行
- ★本別町指定
災害備蓄用飲料水576ℓ(1.5ℓペットボトル384本)
..... 北5丁目 帯広トヨペット株式会社本別店
代表取締役社長 若林 剛



★本別町スポーツ振興基金
金76,020円 本別町民ゴルフ大会実行委員会
実行委員長 岡崎 勉

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付
金50,000円 東京本別会 会長 新津悦男
(内訳)

- ★福祉でまちづくり推進事業 金10,000円
- ★日本の豆を生かした農産物加工体験施設整備事業 金10,000円
- ★自然との共存・環境保全推進事業 金10,000円
- ★資料館特別展示「わが町の七月十五日展」開催事業 金10,000円
- ★本のまち・夢プラン事業 金10,000円

金50,000円 東京都 小林和子
(内訳)
★資料館特別展示「わが町の七月十五日展」開催事業 金25,000円
★本のまち・夢プラン事業 金25,000円

本のある暮らし

149

読みきかせを楽しく!

ぶっくるからのお知らせ

戸籍のまど

お誕生

6月後半から7月前半の届出分

- 阿部 香音^{か のん} 孝光^{たかみつ} 玲奈^{れいな} 6/4 北3丁目
- 鈴木 龍音^{りゅうおと} 育英^{いくえい} 奈央^{なゑ} 6/11 弥生町
- 羽賀 心美^{こころみ} 健一^{けんいち} 友美^{ともみ} 6/13 北8丁目
- 金丸 未織^{みおり} 洵太^{しゅんた} 七海^{しなみ} 7/4 中央小学校
- 奥 倫大朗^{りんたろう} 幸宏^{さきひろ} 晴美^{はるみ} 7/4 向陽町

ご結婚

- (本郷 幸二^{さきにしん} 北8丁目
小泉 諭美^{のりみ} 名寄市)
- (佐々木 俊次^{しゅんじ} 上本別
新津 美加子^{みかこ} 上本別)
- (大前 勝彦^{かつひこ} 高等学校
浅利 菜美^{なみ} 札幌市)

おくやみ

- 本間多美子^{たみこ} 71歳 6/17 南4丁目
- 刃若元 吉^{きち} 81歳 6/22 勇足東3
- 中村いさ^{いさ} 85歳 6/29 弥生町
- 大留ツマ^{つま} 98歳 6/30 向陽町
- 江本重信^{しげのぶ} 87歳 7/1 上本別
- 弓削連子^{れんし} 78歳 7/2 向陽町
- 永井顯三^{あきみつ} 87歳 7/3 南4丁目
- 石山シエ^{しえ} 95歳 7/8 美別東下1

わたしたちのまち

前月比
 人口 7,997人(-13)
 男 3,932人(-2)
 女 4,065人(-11)
 世帯数 3,822戸(-5)
 [6月末日住民基本台帳]

ぶっくる主催「読みきかせ勉強会」のおさそい

図書館ボランティアぶっくるでは、絵本作家で長年絵本の編集に携わってきた後路好章さんを講師に迎え、実技指導を中心とした「読みきかせ勉強会」を行います。

赤ちゃん絵本の魅力、絵本の選び方、楽しい読みきかせの方法などをみんなで楽しく学びませんか？

絵本や読みきかせに興味のある人、子育て真っ最中の人など、大歓迎です。

と き 8月20日(火) 午前10時30分から正午まで

と ころ 図書館視聴覚室

講 師 後路好章さん

プロフィール

1940年北海道生まれ。北海道大学にて教育学専攻。
元アリス館編集長。国語教科書編集委員。赤ちゃん絵本研究会代表。
著作に絵本「もうわらった」など。
自身のお孫さんに読みきかせを実践しながら研究中。

申し込み 8月13日(火) までに図書館へ



お問い合わせ先

本別町図書館

(愛称：ぶっくる一丸)

本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112